

「ちょっと一言」

沖縄県 渡嘉敷村長 座間味 昌茂



渡嘉敷村は沖縄本島の県都那覇市の西方3.2kmに20余りの島々からなる慶良間諸島の中の最大の島が渡嘉敷村です。

無人島を含めた村の面積は1,920 haで民有林面積は1,715 ha、国有林面積6.3 ha（不要存地林野）であり村内の面積に占める森林率は89%となっています。そのうち人工林面積330 haであり人口林率は19%で県平均の14%より高い値となっています。

人工造林の推進及び住宅周辺の森林保全整備を積極的に行い、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、重視すべき機能に応じた整備を行う観点から、森林を「水土保全林」「森林と人の共生林」「資源の循環利用林」に区分して目的に沿って育成単層林施行・天然林施行を目的に実施し、望ましい森林資源の姿に誘導するよう努めています。

我が村は、面積が狭小の割に山が高く森林面積が広く、そのため水源が豊富です。琉球王朝時代には沖縄本島南部地域に生活用の薪を長い間移出していました。

また、四方が海に囲まれているため、生活の糧を海に求めていた明治30年代から鰹業の創業が始まり村の経済を担っていました。鰹節の製造には豊富な薪と水が不可欠であり本村の山林と豊かな水源のおかげで鰹業が村一大産業に発展した。特に琉球松は、鰹節の燻製にもっとも適していると言われており、本村の山林の7割は琉球松で、村木にも指定されています。

本年の10月7日には、村内有数の観光名称である「阿波連ビーチ」の国有林内において、国際森林年の一環として植樹祭が開催され、この植樹祭に村としても全面的に協力を行いました。また、これを契機に衰退して貴重な山林水源を活かした産業を起こせないか検討したいと考えているところです。